

2022年度

NO.12 (通算 NO34)

2022・10・25

事務局だより

一般社団法人 示現会

事務所 ☎ 03-3824-9128

○ リモート研究会報告

裏面 ○<特集> 巡回展報告・
奨励展報告

朝、散歩していると大きな水たまりがありました。久しぶりの澄み切った青空と浮かんでいる雲が幻想的に映っています。と、飛行機が通ったのでしょうか、白い本の線が青空を横切りました。同じ空の下で悲惨な戦争が起きているということは信じられません。ウクライナの人も水たまりの空を見ているでしょうか。早く戦争が終わってほしいと改めて思います。



今年度の研究会を終えて

2月からは始まった今年度の研究会は6回実施され、この10月2日をもちに終了しました。研究会は、示現会の年間行事として実施されます。少しでも自分の作品を向上させたい、という方が対象です。これから示現会展に出品しようと思っっている方も参加できます。6回の開催で合計延べ人数として469名が参加しました。個々では28名になります。リモート研究会としては良い点、悪い点があります。良い点としては、遠方の方の参加が交通費などの費用が掛からず比較的参加しやすい。悪い点は、作者の言葉が聞けない、また講師に問い返せない、等です。いろいろありますが、研究会は一般から会員までどなたでも、また号数、モチーフ等どのような作品でも参加できます。二下手法な絵を見せたくないという言葉も聞きましたが、そんなことはありません。もっと気軽に利用してみませんか。次年度は1月15日が初回になります。皆さんの参加をお待ちします。

研究会参加者

6回合計	469名
1月16日	64名
2月20日	108名
6月 5日	56名
7月17日	63名
9月11日	92名
10月2日	86名

会員	134名
準会員	35名
会友	27名
一般	32名

3階のアトリエで講師の指導、そして2階でデータ処理、送付作業等を行いました。

作品研究会について

係主任 中西 敦

改めて気になる点を記します。

【郵便関連】

- 政府の働き方改革導入で郵便サービスが逆に悪化しております。普通郵便は休日には動かさず5〜6日かかることがあります。できれば往復とも速達にしてください。封筒上部に赤い帯と速達と自分で記載、速達料切手を貼って投函するだけ、郵便局に行く必要無し。送り先は現在中西敦宅、必着日程を通知しています。示現会館に送ると郵便事情で回送が期日までに届かない恐れがあります。
- 封筒の大きさはできるだけ往復とも長3でお願います。作業整理の都合上の希望です。
- 【USB関連】
- メモリー不足で講師をお返しできないケースがあります。投函前に確認ください。

コロナ禍を機に災い転じてリモート形式の研究会を実施しています。

参加者の皆様にとっても功罪あるかと存じますが、事務局含め、回数を重ねることでの形式にも慣れてきて各プロセスがスムーズになったと感じます。

コロナ禍の収束時には集合形式の併用やIT技術の活用などまだまだ課題はありますが、皆様にとっても良いアイデアがあればごんごん挙げて頂きたいと思っております。

係の仕事

リモートの研究会では、先ず作品の資料づくりがあります。

大体、研究会の1週間前に作品の写真を送ってもらい、それをデータ化します。この作業は研修係の中西が担当します。1枚1枚の写真を、スキャナーで取り込み、作者名、氏名、作者からの言葉などを取り込みます。

参加者の一覧表、またそれぞれの作品の返送用の印刷などがあります。

前日は、3階アトリエ、2階の会議室を研究会の実施できるよう整備します。(担当安藤)

当日、渡邊担当理事、中西係主任から作業などの打ち合わせがあり、研究会が始まります。

プロジェクターで作品の写真を100号前後で投影、(担当中西)それを見ながら講師が話をします。

撮影担当の係(担当、石田、安藤)、そして記述担当の係(石橋、遠山)が講評を記録していきます。

講師の撮影データは本人から送られてきたメディアにデータとして移し替える作業があります。これは2階で行います。

2階では、パソコンを使って、データ処理(担当、渡邊、倉本、大淵)、そして、返送の用意です(担当、武、事務員の伊集院)。

10時(時には9時より)開始、昼食の1時間を取り、大体、夕方の5時前後、時には7時近くまでかかることもあります。

返送の準備まで終わり、当日ポストに入れて研究会の1日が終了します。

同じような写真が多々入っていると、どれを選択すべきか悩みます。講評を受けたい画像を特定してください。

【写真関連】

- 絵の全面面が納まっていること、絵の画面に画材など物体が写り込んでいたり、日付が入っているものがあります。画面の歪み、多少は修正効きます、ハレーションが強いもの、部分的に暗すぎのものなど、細心の注意で撮影ください。デジタルカメラで撮影しているならそのSDカードを送ってください。
- 写真は折らないでください。サイズは小さくてもこちらで拡大できます、または封筒を大きくする。
- 【絵に関して】
- 質問事項はできるだけ端的に具体的に客観的に記載ください。冗長や情緒的、主観的な表現は伝わりにくい場合があります。講評時間を無駄に消費してしまいます。
- 画題、絵の大きさ、出展先もできるだけ記載ください。点数は1人2点までとしておりますのでご協力願います。
- 早い段階での参加を推奨します。下絵や線構図だけでも方向性に関して示唆が得られるので、その後の制作に迷いがなくなります。完成しての遅い参加より未完でも早い参加が望ましいと思っております。

特集1

巡回展報告

今年度予定されている巡回展は残すところあと、名古屋（10月25日～）金沢（11月23日～）の2か所になりました。コロナ禍が続く中での開催はいろいろ制約があり、準備なども大変でした。今回は8月末に開催された京都展を報告いたします。

京都展

表現を通してお互いに育ち合い、先人達の努力と、現支部員達の強い絆が結束や連携を保ち、今日を迎えられている事に改めて感謝です。この度の巡回京都展は個人の鑑賞者は勿論、想像以上に学生集団や観光旅行に美術鑑賞を加えた団体等、今迄以上に関心を寄せて頂いている事を嬉しく感じました。これも出品されている先生方のお陰です。特にコロナ禍中の今だからこそ、閉塞感から少しでも開放される事等も含めて、作品の鑑賞を願って開催していました。これからも、心に響く展覧会となります様支部員一同心がけたいと思っています。

京都支部長 荒井まき子

写真上は会場で行われた受賞者の表彰式



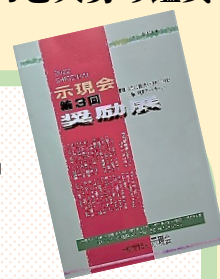
特集2

奨励展終了・報告



前日の準備に集まった 係、事務局の皆さん

8月30日より銀座アートホール全館を使って開催された第3回「夏季示現会奨励展」はコロナ禍の中ではありましたが、無事終了することが出来ました。20号、30号という作品で新たな示現会の魅力を大勢の鑑賞者に知ってもらえたのではないのでしょうか。係の皆さんお疲れさまでした。



夏季示現会 奨励展 報告

係主任 石田幸嗣

展示された作品がパンフレットに掲載されます。出品者には5部お送りしました。

のなホーさげく
会いはへ載す。覧
現る内ムに掲ご
示い案ージれひご
ださい。



『450人』
これは第3回奨励展の入場者の数です。前回と比べて約1.4倍になります。オミクロン変異株による爆発的なコロナ感染拡大の第7波の中で多くの方に「ご来場いただき、誠にありがとうございました。特に他の会の来賓の方も大勢入場していただきました。作品搬出入・展示・会場当番等全般を実行委員で担当いたしました。作品搬入も10時から受付し1時間程度で完了し、展示作業を進めました。と同時に、今回も面集を作ることになりました。会場に来られない出品者の方に配布するとともに来ていただいた入場者にもお配りするためです。作品搬入時に撮影し、夜を徹して編集し印刷所へ出しました。翌日の夕刻には会場の受付に置くことができました。会場当番で気付いたことは、場外で広々としたショーウィンドウから見られて、「すてきな作品！」と言って入場される方がおられたことです。もちろん案内はがきを手にしたお客様も大勢お見えになりました。この奨励展は「春の本展に対して夏の奨励展」ということで、示現会にとっても大事な行事の一つだと思えます。主旨では作品制作の意欲と画力の向上を目指しております。また、示現会会員の作品を知ってもらう機会の場合とします。今回はコロナ禍の中で、多くの成果を上げることができたと思っております。出品者の方々には作品発送で大変お世話になりました。特に宅配便の活用では大変ご面倒をおかけしたことと思います。出品者の皆様ご協力ありがとうございました。また、実行委員の皆様ご協力ありがとうございました。